



# RUNNER

Vol.21



Louchier

◆目次◆

今日のRUNNER  
スズメ目の鳥たち……………2  
活動の現場……………4  
足環Project始動!!……………7

M(猛禽)プロジェクト+足環プロジェクト特別編  
ミサゴ飛ぶ……………8  
ランナー通りの住人たち  
～タヌキ編～……………10  
インフォメーション……………12



# 今日のRUNNER



第十九走者：スズメ目の鳥たち

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 傷病鳥獣

傷ついたり弱ったりして保護された野生動物（傷病鳥獣）が、毎年500羽（頭）近く自然環境保全センターに運び込まれてきます。その多くは、わたしたちにとっても身近な動物たちです。哺乳類であればタヌキやハクビシン、ムササビにコウモリ。鳥類であれば、スズメやセキレイ、サギやハトの仲間など。自然環境保全センターでは、傷病鳥獣を収容・治療し、野生に帰す活動を行っています。過去5年間の救護数上位10種は以下のようになっています（表1）。

表1: 救護数上位10種

順位	25年度	24年度	23年度	22年度	21年度
1	ツバメ	ツバメ	ツバメ	ツバメ	ツバメ
2	スズメ	スズメ	スズメ	スズメ	スズメ
3	キジバト	キジバト	キジバト	タヌキ	タヌキ
4	ヒヨドリ	ヒヨドリ	ムクドリ	キジバト	キジバト
5	タヌキ	メジロ	シジュウカラ	ヒヨドリ	メジロ
6	ムクドリ	ムクドリ	タヌキ	ムクドリ	ムクドリ
7	シジュウカラ	タヌキ	ヒヨドリ	メジロ	ヒヨドリ
8	カルガモ	ゴイサギ	メジロ	カルガモ	イワツバメ
9	アブラコウモリ	シジュウカラ	カルガモ	アブラコウモリ	カルガモ
10	ハクセキレイ	アブラコウモリ	ハクビシン	イワツバメ	シジュウカラ

※「平成25年度野生動物救護実績について」(神奈川県自然環境保全センター)より改変

## スズメ目の鳥たち

救護された野生動物を見てみると、スズメ目の鳥たちが多く見られます（表1, 着色部）。これらの鳥たちは年度ごとに多少のばらつきはあるものの救護数も多く、センターでも顔なじみの鳥たちです（図1）。

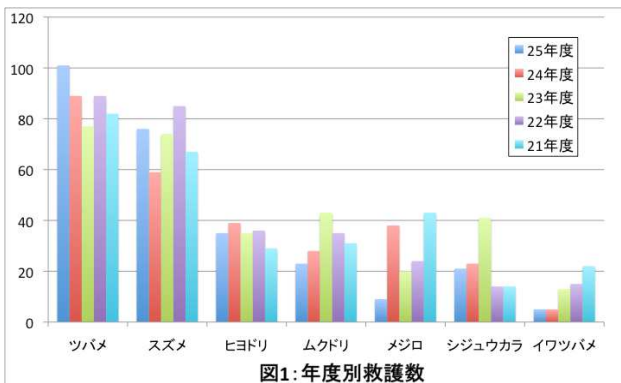


図1: 年度別救護数

これらの鳥たちは、どのような状態で保護されてくるのでしょうか。救護数の多いスズメ目の鳥7種について月別の救護数を比較してみましょう（図2）。

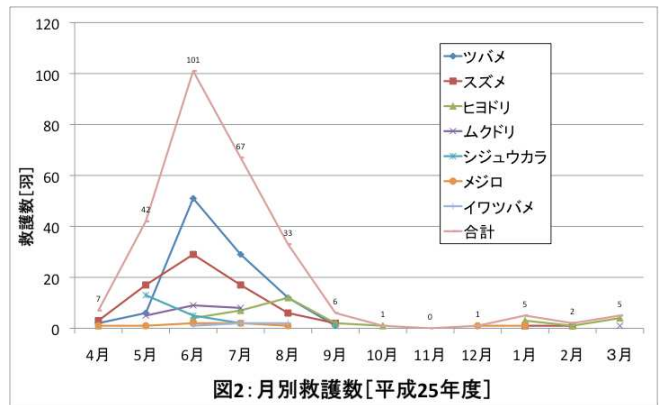


図2: 月別救護数 [平成25年度]

救護個体数の比較から、4月から救護数が増加し、6月をピークに8月までが特に多い時期となります。多くの留鳥は3月から8月にかけて繁殖・子育てを行うため、救護の多い時期と重なってきます。幼成別年齢に比較してみると次のようになります（表2）。

表2: 幼成別年齢

	巣内ヒナ	巣立ちヒナ	成鳥	合計
ツバメ	65	22	14	101
スズメ	47	24	5	76
ヒヨドリ	6	20	9	35
ムクドリ	4	16	3	23
シジュウカラ	11	6	4	21
メジロ	1	4	4	9
イワツバメ	1	4	0	5

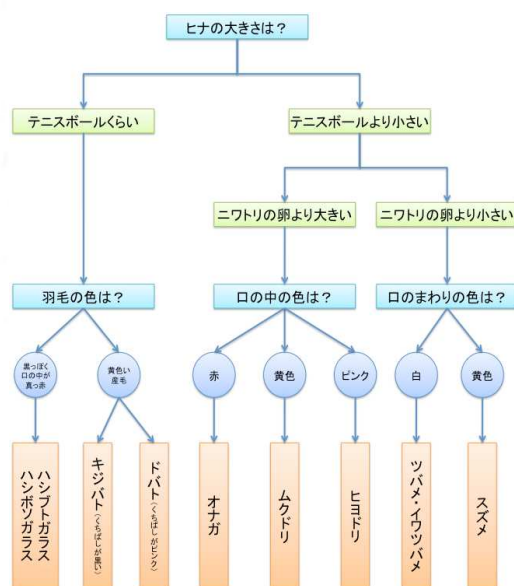
救護件数の多いツバメ、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリではヒナの保護が特に多いです。中には誤認保護によって運び込まれるケースもありますが、これらの鳥類はわたしたちが生活するごく身近な場所で繁殖を行っていることも救護につながる要因のひとつであると考えられます。

○図鑑○ NO.19

救護されたスズメ目の鳥たち (25年度)

アトリ科	カワラヒロ
カラス科	オナガ
シジュウカラ科	シジュウカラ, ヤマガラ
スズメ科	スズメ
セキレイ科	ハクセキレイ
ツバメ科	イワツバメ, ツバメ
ヒタキ科	オオルリ, キビタキ, イソヒヨドリ, ツグミ, シロハラ, トラツグミ
ヒヨドリ科	ヒヨドリ
ムクドリ科	ムクドリ
メジロ科	メジロ
モズ科	モズ

ヒナの見分け方



保護原因と転帰

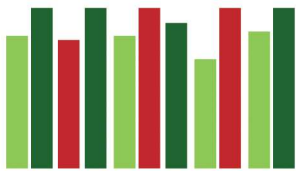
人間の生活圏に暮らすこれらの鳥類の多くは、人の目につきやすく幼鳥の段階で保護されます。特に多いのが巣の損壊や巣からの落下による保護ですが、誤認保護とならないよう注意が必要です。近くに巣があれば、巣に戻してあげることで親鳥は子育てを再開します。また、巣立ちヒナは、飛ぶ練習をしている際に保護されるケースが多くあります。地面でうずくまっているように見えても、少し離れたところで親鳥が様子を見ていることがよくあります。幼鳥・成鳥に関わらず、救護原因として挙げられるのが、ネコやカラスなどの天敵に襲われることです。怪我により命を落としたり、尾羽の損傷や骨折などで生き延びても飛べなくなってしまうこともあります。成鳥に多いのがガラス窓への衝突や粘着材まみれになって飛べなくなってしまうことなどがあります。自然界にはガラス窓はないものですから、ガラスに映った木々は、鳥たちから見ると、林が続いている

ように映ります。そのため、窓ガラスに衝突して、骨折や脳の損傷、内臓破裂など、重傷もしくは死に至るケースも多くあります。ネズミ捕りなどの粘着材は、材質によっては取り除くことが困難な場合もありますが、換羽により羽が生え揃うことで元気に飛び立つことができます。

表3: 転帰

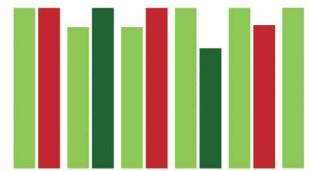
	放野	死亡	その他
ツバメ	22	75	4
スズメ	25	50	1
ヒヨドリ	5	26	4
ムクドリ	7	16	0
メジロ	5	4	0
シジュウカラ	0	21	0
イワツバメ	0	5	0

せっかく保護された動物たちも、治療やリハビリなど、救護の段階で命を落としてしまうことが少なくありません。傷病鳥獣を救護する対処的な活動も大切なことですが、人為的な理由で傷病鳥獣を生み出さないように根本原因を減らしていく努力をしていきたいところです。



# 活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



## 高部屋小学校環境教育 報告

道のべの木槿は馬にくはれけり・・・芭蕉

9月19日、金色の田んぼの間を抜けて、伝統と趣のある校門の伊勢原市立高部屋小学校に到着しました。迎えてくれたのは広い校庭と立派な桜の木。

この日、私たち<野生動物救護の会>は、本校の3年生を対象に環境教育の一環として「身近な野生動物が、人間の生活によって傷ついていることを知り、自分たちができることについて考えを持てるようにする。」という主旨のもと、出前授業を行いました。

最初に、身近な野生動物を知ってもらうことを目的に、子どもたちから知っている動物をあげてもらいました。哺乳類の名前は上がったのですが、なかなか鳥類の名前が出ませんでした。次に人間との関わりを具体的に知ってもらうため、寸劇を2本。2本目については子どもたちに演じてもらいました。

そして、本題である保護されてくる野生動物の現状をパワーポイントを使って子供たちに説明し、保護原因の大半が人間の暮らしと大きく関係していることを気付いてもらうこと、自分たちに何ができるかを考えてもらうこととしました。

最後に、「手のひらを太陽に」の替え歌を全員で大合唱。同行したチョウゲンボウのけいすけ君とコミミズクのロン君とご挨拶をして活気ある授業となりました。

全体を通して感じたことは、子どもたちが真剣に聞いてくれたこと、それでいて意見を求めると、どんどん手を挙げ、自分の意見を言える・・・そんな子どもたちを見ていて、頼もしく未来の野生動物も託せるのかなあと感じました。どんな難しいのではと思えることも伝えようという思いがあれば、子どもなりに理解しようとしてくれることがわかりました。子どもの時からのこういった環境教育の大切さを身に染みて感じた一日でした。

ご協力くださった皆さま方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。



## 動物フェスティバルin西湘 報告

10月5日 小田原アリーナにおいて、今年で39回目の動物フェスティバルが開催されました。テーマは「育もう豊かな心やさしい気持ち」主催は神奈川県や小田原市を始めとした近隣10の市町&獣医師会&動物愛護協会。

ブースは2つに分かれ、屋外に8件。屋内に17件。

我々、野生動物救護の会も普及啓発のために屋外、屋内の両方に出展参加しました。屋内のテーマは「傷つく野生動物たち」と「羽根標本」、人間の生活の影で傷ついている野生動物の痛ましさや、残念ながら助けられなかった鳥たちの羽根標本。来場者は熱心にパネルを見ていました。

屋外のテーマは「足環プロジェクト」野生動物が人間のせいで傷ついても助けてあげる事ができるのも人間。赤い足環を付けて野生に帰す事のできた鳥たちをパネルで紹介。そして、命は助かったものの、もう野生には帰る事のできなくなった野生からのメッセンジャーの3羽の鳥たち。

コガモのうどんちゃん・コミミズクのロンくん・チョウゲンボウのけいすけ、外は台風18号の影響で大荒れの天気でしたが、みなさん雨の中でも話を聞いてくれました。(3羽の鳥たち、ご苦労さま) (もちろん参加されたスタッフもお疲れさまです)

天気にはめぐまれませんでした。それでも来場者は2500人になったそうです。来年の動物フェスティバルは、11月3日秦野市、市民まつりと同時開催。今年は参加できなかった方～来年にはぜひ、のぞいて見て下さい。

コガモのうどんちゃん



チョウゲンボウのけいすけ君



コミミズクのロン君



## 清水小学校環境教育 報告

暦の上では秋ですが、まだまだ日中は暖かい10月16日。七沢自然ふれあいセンターでは厚木市立清水小学校の4年生の林間学校が行われていました。野生動物救護の会はそこに「いのち」と向き合う環境教育の勉強のお手伝いにと出向きました。

まず初めに、身近な野生動物について動物種の説明をしながら、保護対象だと思ふか否かを挙手してもらいました。子供たちはスズメやタヌキなど身近に感じる動物ほど保護対象ではないと認識していたようで、実は在来種は全て保護対象（神奈川県では現在カラスのみ対象外）だと説明したところ、「えー?!」という驚きの声も聞こえました。

次に行われたのは寸劇。ネコ傷に関するを先生方に、釣り針に関する寸劇を子供たちにやってもらいました。本題の神奈川県における野生動物の保護の現状はパワーポイントにて説明。ほとんどの原因に人間が関わっている事を理解してもらい、おさらいとしてこれらに対する対策案を発表してもらいました。カーテンを閉める、ネコを家で飼う、釣り糸を捨てないなど、適切な案が続々と飛び出し、さすが4年生といった感じでした。

その後、「手のひらを太陽に」の替え歌を合唱し、ツバメ、チョウゲンボウ、コミミズク、タヌキといったエデュケーションアニマルを実際に順番に見てもらいました。質疑応答では野生動物の生息状況や人獣共通感染症に関する質問など、なかなか高度な質問まで飛び出しました。最後に各クラスごとにヒヨドリたちの放野に立ち会ってもらい、環境教育は終了となりました。

放野前のヒヨドリが入ったかごに出来る限り近づこうとするその姿勢からも、関心度の高さがうかがえました。どの項目に関しても、みんな真剣に考え、積極的でなお且つ楽しそうに私たちの問いかけに答えてくれていました。これをきっかけに、家族や友達と野生動物について少しでも話し、興味を持ってもらえたらなと思います。



## 厚木環境農政フェア えこまるマーケット 報告

10月26日に厚木市中央公園で厚木市主催の「環境農政フェア えこまるマーケット」が開催されました。会場内は朝市や環境に関するブース、そして愛護団体のブースなどが出展しました。

私たち救護の会は「傷ついた野生動物」と「足環プロジェクト」をテーマとした展示を行いました。今回はチョウゲンボウのけいすけ君とコミミズクのロン君とコガモのうどんちゃんが参加し、来場者に救護の現状や足環の意義などを伝えるためのお手伝いをしてくれました。

お天気にも恵まれ、たくさんの来場者が私たちの説明に耳を傾けてくれました。中には「神奈川にもこんな鳥がいるんですね」などとロン君を見ながら言う方やじっと動かないけいすけ君を見て「人形かと思った」なんて言う方もいました。

彼らの姿を見て野生動物に対する思いを深めてもらえたら…と思いました。



## 2014年ジャパンバードフェスティバル 報告

11月1日、2日と千葉県我孫子市手賀沼湖畔で、2014年ジャパンバードフェスティバルが開催されました。毎年全国各地から多くの方がやってくるこのイベントに、 救護の会は「人間社会の影で傷つく野生動物たち」と「足環プロジェクト」をテーマとして出展しました。野生復帰できなくなってしまったコガモのうどんちゃんも参加しました。

1日は天気予報では雨で、朝のうちは曇っていたのですが、朝から多くの人で賑わっていました。午後から本格的な雨となり人足も減りましたが、翌2日はお天気に恵まれ、昨日行くのをとりやめにした方が多く押し寄せたのか、かなりの数の来場者がありました。

うどんちゃん存在に気付き足をとめ、ブース内の展示物も多くの方が見入ってくれ、現状を知ってもらうことができました。 何人かの方から「衝突はよくあります」と言われ、各地で発生しているのだと実感しました。

また来場者の方は鳥に興味がある方が多いので、説明を聞くだけでなく質問も活発にされ、皆さんからまた普及啓発の輪が広がってくれるといいなと思いました。 救護の会以外にもNPO団体や市民団体、鳥の写真展示やステージでの音楽、鳥関係グッズの販売、 飲食の販売など、楽しいイベントです。参加したことのない方は、是非一度足を運んでみてください！



## 秦野市民まつり 報告

11月3日、最高の秋晴れのなか市民まつりが開催され、私たち救護の会も「人間社会の影で傷つく野生動物たち」と「足環プロジェクト」をテーマに、パネル展示を行ってきました。また、エデュケーションアニマルとしてチョウゲンボウとコミミズクにも登場してもらい、皆さんの関心を引きつけてくれました。

普段過ごしている中では私たち人間にとっては便利な道具なども、なかなか気づかないけれど野生動物達にとっては様々なケガの原因となっていること、身近にはたくさんの野生動物がいるんだということを知っていただけたのではないのでしょうか。 また、足環プロジェクトでは放野した鳥たちの足環の説明をし、野生復帰後の追跡調査を行っていることを伝えました。神奈川県内をはじめとして秦野市内でも数羽の鳥が野生復帰しているので、情報提供をしていただくと助かります。

たくさんの来場者のかたに少しでも野生動物保護の原因を考え、減らしていくための気遣いをしてもらえれば幸いです。 来年も参加予定ですので、よろしくお祈りします。



# 足環Project始動!!

## 足環プロジェクトとは

足環を付けた放鳥個体を野外で発見もしくは再捕獲等することで、その個体の生存年数、移動範囲・距離などを知るための活動です。詳しくは「RUNNER」vol.16を御覧下さい。

### ～足環を付けて放された鳥たち～

- ・ D3 9月 ウミネコ 大磯町海岸
- ・ D5 11月 ミサゴ 茅ヶ崎市  
→ 特別編【ミサゴ飛ぶ】を読んで下さい
- ・ D6 11月 チョウゲンボウ 小田原市



D3 ウミネコ

### ～チョウゲンボウ(D6)の訓練～

- 2013/12/9 小田原市で粘着物を体にくっつけて保護。  
羽が痛んでしまったため、換羽を待つ。
- 2014/10/16 飛行訓練のためにボランティアさん宅へ。  
訓練は10/17から始まり、11/10まで。
- 2014/11/13 小田原市諏訪の原公園で放野した。



放野直前

最初はとても臆病な子で、何をしても「ガタガタ」震えていたのに、訓練が終了する頃は30mを軽々飛ぶようになって、訓練には苦勞しませんでした。

放野後は、桜の木に止まってしばらく様子を見た後、元気に飛び去って行きました。

(救護の会 HP ブログを見てもらうと動画で見られます)

☆左足に赤い足環をつけた野鳥を見かけたら、下記まで連絡して下さい。

●NPO 法人 野生動物救護の会 TEL 0463-75-1830

e-mail : [wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp](mailto:wildrelief@kanagawa-choju.sakura.ne.jp)

または

●神奈川県自然環境保全センター 自然保護課 TEL 046-248-6682

(連絡先が変わりました)

鳥の詳しい情報はこちらに載せています。

ブログ URL : <http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>

# ミサゴ飛ぶ

ミサゴ→「図鑑:日本のワシタカ類 第2版 文一総合出版1998」より抜粋  
 およそカラスと同じか、それより少し大きいくらいの、翼の非常に細長いタカである。魚を取るタカ類なので、海、湖沼、川などの近くでよく見かける。背と翼上面が暗褐色で、頭頸部と体の下面が白く、目から頸側を経て後頸にいたる太い黒帯がある。



保護された時



飛行確認



痛んだ尾羽

## 神奈川県自然環境保全センターからの情報→2014/10/18

保全センターに、茅ヶ崎市から弱ったミサゴが持ち込まれました(受付番号140459)。保全センターでは、初めての保護です。外傷などは特に見当たらず、餌が取れずに弱ったのか、とりあえず様子を見る事にしました。しかし置餌(美味しそうなアジ)をしても食べてはくれず、それから放野の日までは、一日3回の強制給餌。10/24、狭いケージの中では、羽を痛めてしまうので、大きなフライングケージ(鳥カフェ)で飛べないものかと、試しに放してみましたが、まったく飛ぶ気配がありません。10/27、少しでも動いて運動量上がる様にと少し広めのフライングケージ(露天4)に放しました。ここで、少しは飛ぶ様になりましたが、強制給餌のために捕まえる事で羽を痛める結果になってしまい、尾羽もほとんど折れ、大事な翼の初列風きり羽も少しずつ痛みはじめるという事態を招いてしまいました。

これが、オオタカなどの猛禽だったら、夏の換羽を待ち、きれいな羽がそろってからリハビリ(訓練に2ヶ月は要する)を行えば放野は可能ですが、ミサゴとなると、主食は魚、オオタカとは事情がかなり違うので、保護期間が長くなるのは、とても不安です。ボランティアに来るたびに羽の痛みが気になるため、ためしに広い場所で、足に紐を付けて飛べるか試してみようと提案し、11/11に実施してみました。足皮・足紐(鷹匠語だと大緒、おおとお読む)・50mほどの紐を付けて、神奈川リハビリテーション病院のグラウンドの中央にミサゴを置いてみると、なんのためらいもなく低く滑空しながら上空を目指そうとしました。(グラウンド周囲が林のため、それ以上は飛ばせない)まるで、飛行機の離陸を見ている様でした。何回か試しましたが、息もあがらずに飛びます。これはいける(飛べる)と2日後に放野することになりました。



11/13は、朝から2羽のノスリ(骨折のため放野不可能  
個体)から合計7本の尾羽を頂戴して、ミサゴに継羽。ミ  
サゴは、おとなしくしてくれていたの、楽に作業が  
出来ました。そして、『D5』の足環を左足に付けて準備完  
了です。センター職員さんと保護場所に近い相模川河口で、  
放野に適した場所を探し、風の強い日でしたが、川岸で  
放すとミサゴは対岸を目指して川を渡り始めました。後  
で地図で測ったら350m以上ある大きな川、途中、水面  
に降りるのか(もしかしたら落ちる?)という瞬間もありま  
したが、無事に渡りきり対岸の林の上空まで上がってか  
ら見えなくなりました。

ミサゴという猛禽は、初めての体験でしたが、ミサゴ  
の個性をもっと勉強したいと感じました。そして、今回  
の体験が今後の救護活動に生かせればと思います。(でも、  
救護される野生動物は減ってほしい…心から)

放野  
センター  
職員さんと



ノスリの継羽



左の翼 初列風切



右の翼 初列風切



尾羽 継羽完成

飛行確認場面と放野場面は、野生動物救護のHPブログで動画を見られます。  
<http://blog.goo.ne.jp/yaseidobutsu-kyugo>

# ランナー通りの 住人たち ～タヌキ編～

## 盲目のタヌキ

受付 No.140023 受付日 2014年2月21日

保全センターに来るタヌキたちは疥癬症または交通事故により運ばれてくる個体がほとんどです。そんな中で、このタヌキは伊勢原市から原因不明でふらついて歩いているところ保護され運ばれてきました。その後の検査により、栄養状態は良いものの、顔に傷があり左右の顎が折れていて、また、平衡感覚が鈍いことから、交通事故が疑われました。



頭が右に傾く

神経検査を入念に行ってみると、体や足を触ると、引っこめたり嫌がって咬もうとはしたり、音には反応するものの、常に体が右に傾いてしまい、さらには目が全く見えていないことが判明しました。どうやら脳に障害が残ってしまったらしく、ケージの外に出してみると、右にぐるぐる回ってしまいました。本人は一生懸命逃げようとまっす

ぐ走っているつもりなのかもしれません…。

## 明らかに大きな体

保全センターに保護されるタヌキの体重は大体3~4.5kg程度の個体が多いですが、中には弱り切って2kg台で保護される個体もあります。無事に放野出来る状態まで回復する頃には、ほとんどが4kg台になります。

そんな中で、このタヌキは保護時でも体重が4.2kgと大柄な方だったのに、センターにいる間にどんどんと体重が重くなり、ついには一時期5kg台にまで突入してしまいました。確かに運動不足ではあるものの、過去に同じようにケージの中で暮らしてきたタヌキたちよりも明らかに体重が増えていきました。ただの太りやすい体質かもしれませんが、もしかしたら内臓を損傷して、ホルモンの分泌がおかしくなった可能性もあります。しかし残念ながら計測ができないため、現在は状態を見ながら餌の量を増減しています。



大きな体。写真では焦点が合っているように見えるが人が移動しても同じ方向を見たまま。

## さらなる苦難？

また、とある日、このタヌキのお尻と足の一部の毛が薄く、皮膚にかさぶたが付いているのに気付きました。もしや…？と思い、少し皮膚と毛を取って顕微鏡で見るとダニが動いているのが確認できました。なんと、いつの間にか疥癬症にかかってしまったようです。早期発見ができたため、すぐに治療を開始したので悪化せずに済み

ました。

保全センターでは疥癬症にかかった個体とそうでない個体は別々の部屋に分けて世話をしている院内感染を防ぐ努力をしていますが、その個体の体調によっては感染しやすいこともあるため、残念ながらまだ完全には防ぎきれしていません。感染症にかかった個体用の食器やケージの熱湯消毒、手袋の交換等、みなさんも院内感染の防止に是非ご協力をお願いします。また、疥癬症は人や犬猫にもかかるので、家に帰った後の手洗いやシャワー等もきちんとして行うように心がけてください。



お尻の毛がまた生えてきたぼんちゃん  
同じ室内のタヌキとはうまくやっている様子

## なれるか？エジュケーションアニマル

この子はもう放野できないため、一生人の近くで暗闇の中で暮らすこととなります。そんなこのタヌキさん、「ぼんちゃん」と名付けられました。このぼんちゃん、段々と日常生活には慣れてきたようで、毎日の掃除の際にケージを動かしたりしても驚かなくなりました。しかし、やはりまだ人にいきなり触られる際はびっくりして咬もうとします。そのため、先に「ぼんちゃん」と声をかけてから少しずつ触って慣れさせるように協力をお願いします。これを続けたら、もしかしたらエジュケーションアニマルにもなれるかもしれません。

## 秋に多い交通事故

タヌキの交通事故はタヌキの生態と密接に関

係していて、秋に多く発生します。

秋はタヌキの子離れの時期です。春から夏にかけて子育てをしたタヌキは、秋に親は子供を自分のテリトリーから追い出します。その後、まだ自分のテリトリーが確保できずに、食べ物を求めてうろろしている親離れしたばかりの社会経験の少ない若いタヌキが車に轢かれてしまうことが多いのです。特にカーブの直後に轢かれることが多く、出会いがしらの事故であることが伺えます。

みなさん、特に山道や動物注意の標識がある道でのスピード出しすぎには注意ですよ！



受付 No. 140401 受付日 2014 年 8 月 15 日  
交通事故により伊勢原市で保護。  
前肢の骨折した骨を一部切除。現在は歩ける程度まで回復。

## 治療で大事なこと

先ほどタヌキの2大救護原因が疥癬症と交通事故だご紹介しましたが、たまにこの両方が原因で運ばれてくる個体があります。疥癬症により弱ってふらふら歩いていたところ、車に轢かれるものと、車に轢かれた後、命は助かったけど五体不満足になり免疫力が徐々に弱って疥癬症にかかるものです。

個体の重症度によって治療の方法や優先順位は変更されます。どの治療をするにしても、動物と人間の両方にとって正しく保定することは安全面からも処置時間を短くして負担を減らす意味で、とても重要になってきます。是非これをマスターして一日でも早く回復して放野できるようにしましょう！

# インフォメーション

## イベント

### ◆春休み体験教室「わくわく野鳥体験！」

▽日時:2015年3月28日(土)

▽場所:自然環境保全センター

☆小学生に、野生動物とのふれ合いを通して自然について学んでもらう企画です。  
一緒に参加してくれるボランティアスタッフも募集します。

## 探鳥会

### ◆1月～3月 探鳥会 開催

▽詳細未定 決定次第 救護の会のホームページ等でお知らせします。

## 衝突調査

### ◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日 12月26日、1月30日、2月27日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくれる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を！

## “救護の会 ブログ” 始まっています！

### ◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介！

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ「救護の会ブログ始めました！」のバナーをクリックしてご覧下さい♪  
アドレスはコチラ→ <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



## 年末年始の保全センターボランティアについて

### ◆自然環境保全センターの冬季休業

▽休業期間 12月28日～1月4日

☆この期間、センター職員は1人体制で午前中だけの出勤になり、動物たちの世話も手薄になりがちです。お忙しい時期とは思いますが、お時間のある方、是非お手伝いをお願いいたします。(\*休業期間中はセンターへの電話/FAXも不通となりますので、ご注意ください)

\* 詳細は当会ホームページをご覧ください \*

♪嬉しいお知らせ♪ 救護の会の会員さんである、小学6年生の春田千紘さんが、H26年度神奈川県愛鳥週間用ポスターコンクール 小学校高学年の部で最優秀賞を受賞されました。おめでとうございます！  
また、今号の表紙絵は千紘さんのお兄さんである 朋宏君が描いてくださいました。ありがとうございました♪

## ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。  
私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口 5,000円 個人一口 3,000円 一口以上

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2014年12月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830  
〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>  
編集者 表紙:春田朋宏(平沼亜矢子) 今日のRUNNER:松本卓巳  
活動の現場:平沼亜矢子 足環 Project 始動!!:渡辺優子(片瀬亜妃)  
ミサゴ飛ぶ:渡辺優子(平沼亜矢子) ランナー通りの住人たち:高橋恵  
インフォメーション:神崎さつき